

一般情勢報告

日本労働總同盟
九州聯合會長 伊藤卯四郎

茲に第七回年次大會を迎えるに當つて、我が九州聯合會の過去一ヶ年の運動を回顧すれば誠に感慨無量にして同志諸君の不撓の努力と犠牲に對して、深甚の謝意と敬意を捧げねばならぬ。

國際情勢に就いては昨年度の大會報告書に述べられてゐるところと余り大きな相異は起されてはゐない。即ち世界經濟會議の野垂れ死的失敗は世界各國の排他的國家主義經濟對立を激化させ、從來の國際協調主義は排棄されて、世界各國は競つて國產品の強制的使用、物價吊上げ政策の強行、軍需インフレ、巨款資金の放出、極端なる勞働條件の劣悪化、勞働階級を犠牲に供した生産費の削減と關稅高壁に依つて國外市場の獲得競争に奔命し、以て國內産業の繁榮を企てたが、かゝる姑息的な彌縫策では到底、資本主義機構の奥深く内藏する缺陷を除去するを得ず、世界資本主義は潰滅前夜の苦悶の中で必死のアガキを續けてゐるのである。

世界資本主義の一環をなす我が國の國內情勢は列國が依然として深刻なる産業不況と反動ファツシヨ運動の横行とそれの峻で苦悶してゐるのに、獨り日本の資本主義はインフレ景氣で多少安定をしてゐるかの様に見られてゐる。日本のインフレ景氣の中心は軍需インフレであつて一九三五、六年の國際危機を目標にして今や日本のインフレ景氣はその最高潮に達して居るこの景氣は政府の借金と公債による人造的、一時的、偏頗的な國民を犠牲にして作り出した景氣であるから斷じて永續性を持つものではなく、昭和十一年のロンドン軍縮會議を最後にして必然的に停止されるものである。所謂一九三五、六年の國際非常時は政治的外交で解決されるべきものであるが、昭和十一年以來の軍需インフレの行き詰りから起る國內産業の萎縮、不況

の大嵐こそ眞に勞働階級の非常時とも稱すべきものであらう。

軍需産業に於ける勞働賃金は稍々増大されてゐるかに見えるが、これは全く、勞働の強化、勞働時間の強制的延長に依るものであつて、しかもインフレーション政策の強行で物價は暴騰し、勞働階級の實質的收入は減少の一路を辿るのみである。軍需産業以外の部門に於ける勞働階級の生活實狀は農村の窮乏と共に言語に絶する悲惨なものであつて、勞働階級にとつて軍需インフレの恵みは皆無である。勞働階級の不満と生活苦は刻々に増大してゐるが、勞働階級の純情を奇貨とし、非常時局の空名を以て現實をカムフラージし、勞働爭議の激發を幸うじて阻止してゐるのであつてインフレに依る日本の國內産業の多少の安定は極めてジメ／＼した陰慘なものと稱すべきである。

かゝる情勢下に於いて健全なる勞働組合主義は日本勞働組合會議の結成並に内部の充實強化に依り、その産業協力の誠心と共に社會的信賴を得て、昨年末には日本の國內産業を健全に再建する基準を示す方針として「産業と勞働の統制」に就き政府へ重大なる建議を要請し、政府要路の大官、學者、代表的資本家、並に勞働組合代表百數十人を招待して、この建議に對する意見を求め、これが實現に協力を仰ぐための座談會を主催した。我が九州聯合會に於ても第五回年次大會の決議を以て勞資懇談會の開催を提唱し、協調會並に福岡縣廳の非常なる努力に依つて全國に魁けて眞先に福岡市に於て勞資懇談會を實現させ、既に回を重ねること四回、回を追ふ毎に會議は益々盛大になりその意義は愈々深くなつてゐる。福岡に於ける勞資懇談會の成功が導火線となつて勞資懇談會は全國的に催されるようになり既に内務省社會局に於ては勞資懇談會を通じて、困難にして復雜なる勞資問題並に國家産業と勞働の關係を統制、指導する基準を作り出すために明年度豫算へその費用を計上するに至つたのは健全なる勞働組合運動が社會的信賴を贏ち得た實証に外ならぬ。

九州聯合會は國家産業の維持、發展に協力し、分配の公正を期し、以て勞働階級の徹底的解放を實現するために、この一年は社會的に健全なる勞働組合運動を理解させ、政府にも國策として勞資問題の解決、指導の基準を作り出させる運動の方針に重点を置き、輕薄無責任なる極左、極右の思想運動を九州の戦線から總退却させ、勞働組合の平和的、建設的職責に主力を注ぎ、健全なる勞働組合主義の大旗を掲げて堂々前進を續けたのである。